

2012年3月期 決算説明会

2011年度は「改革'11」の総決算



2012年 5月22日

ユニチカ株式会社

1. 2012年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況

3. 中期計画「改革'11」の総括

- ・「改革'11」の経営数値計画
- ・営業利益変動要因分析
- ・構造改革の進捗
- ・成長戦略の進捗
- ・セグメント別業績
- ・まとめ

4. 2013年3月期業績予想

補足資料～ユニチカの事業の特長

1. 2012年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況

3. 中期計画「改革'11」の総括

- ・「改革'11」の経営数値計画
- ・営業利益変動要因分析
- ・構造改革の進捗
- ・成長戦略の進捗
- ・セグメント別業績
- ・まとめ

4. 2013年3月期業績予想

補足資料～ユニチカの事業の特長

業績の概要 (2011年度)

環境事業の譲渡
により減収

事業環境要因により
高分子事業減益

(金額単位: 億円)	2010年度 実績	2011年度 実績	前期比	
			金額	率
売上高	1,807	1,747	▲60	▲3%
営業利益	105	96	▲9	▲9%
経常利益	61	58	▲4	▲6%
当期純利益	24	13	▲11	▲47%

(金額単位: 億円)	2010年度 実績	2011年度 実績	前期比	
			金額	率
売上高	1,807	1,747	▲60	▲3%
高分子事業	670	673	3	0%
機能材事業	149	150	1	1%
繊維事業	771	767	▲4	▲1%
その他	217	156	▲60	▲28%
営業利益	105	96	▲9	▲9%
高分子事業	106	96	▲9	▲9%
機能材事業	18	17	▲0	▲2%
繊維事業	8	7	▲1	▲11%
その他	10	8	▲2	▲21%
全社・消去	▲36	▲33	3	—

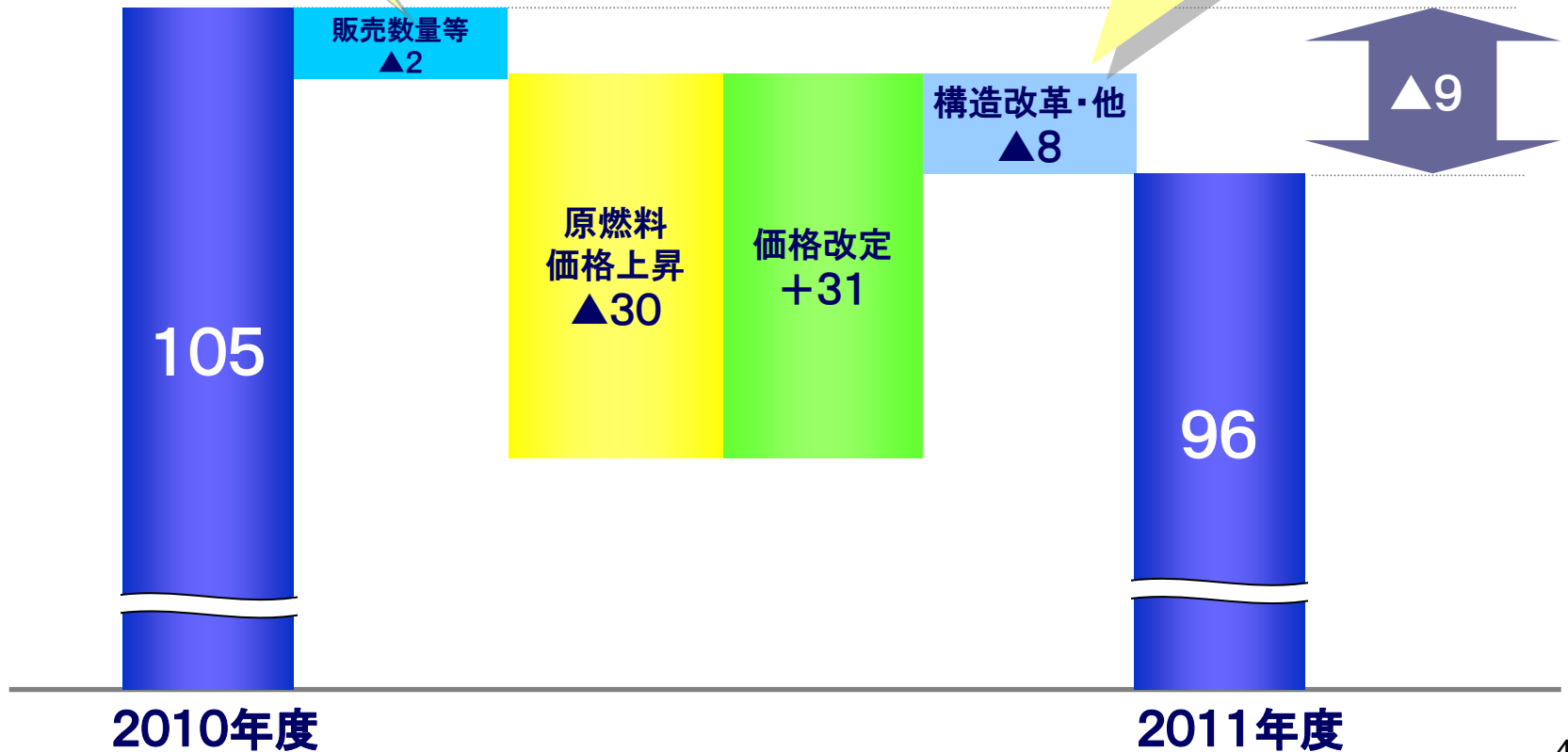
営業利益変動要因分析

(金額単位: 億円)

◆利益悪化

- ・販売数量減
- ・販売構成差など

◆固定費削減 ▲18
構造改善効果+7
など



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)		2011年3月末	2012年3月末	増減
資産合計		2,687	2,685	▲ 3
	流動資産	1,096	1,084	▲ 12
	固定資産	1,592	1,601	9
負債合計		2,428	2,363	▲ 65
純資産合計		260	322	62
	株主資本	235	298	63
	その他の包括利益累計額	▲ 11	▲ 12	▲ 1
	少数株主持分	36	37	1
有利子負債		1,825	1,732	▲ 94
自己資本比率		8.3%	10.6%	2.3%

1. 2012年3月期決算概要

- ・業績の推移
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況

3. 中期計画「改革'11」の総括

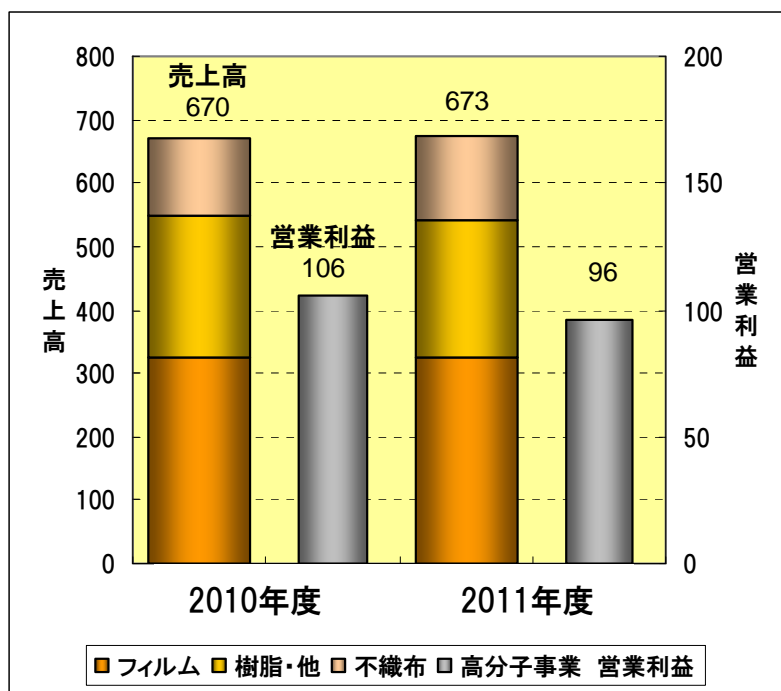
- ・「改革'11」の経営数値計画
- ・営業利益変動要因分析
- ・構造改革の進捗
- ・成長戦略の進捗
- ・セグメント別業績
- ・まとめ

4. 2013年3月期業績予想

補足資料～ユニチカの事業の特長

包装フィルム堅調、その他は事業環境要因により伸び悩み

(金額単位:億円)	2010年度	2011年度	増減
高分子事業 売上高	670	673	3
フィルム	326	326	▲ 0
樹脂・他	223	216	▲ 7
不織布	122	132	10
高分子事業 営業利益	106	96	▲ 9



□フィルム

〔売上高横ばい・増益〕

◆包装分野

上期は、ナイロンを中心に食品包装資材の需要が急増し収益は大幅に伸長。下期は、調整があったものの増収。

◆工業分野

下期に、電気・電子機器用途などで需要が低迷し、減収。

□樹脂・他

〔減収・減益〕

◆ナイロンは、上期は自動車減産影響を受けたが、下期は回復。

◆ポリエステルは、ボトル用途や電気・電子機器用途の需要が減少し減収。

◆ポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、上期は比較的堅調であったが、下期は事務機器用途、電気・電子機器用途の需要が急速に減少。

□不織布

〔増収・減益〕

◆ポリエステルスパンボンド

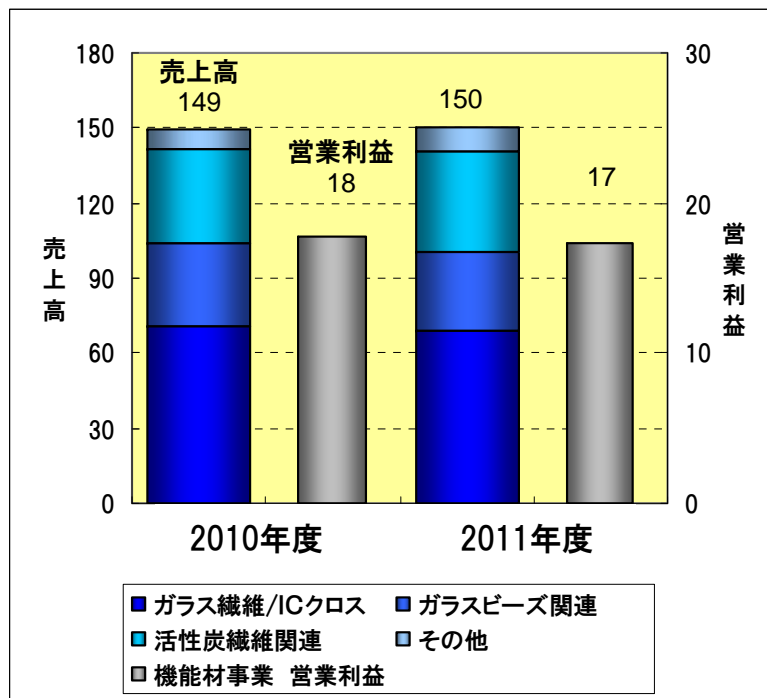
建築・土木用途、輸出など販売数量は伸長したが、原燃料価格上昇によるコストアップを価格改定で十分に吸収できず減益。

◆綿スパンレース

節電対策下でウェットシート用途が好調に推移。

ガラス繊維・活性炭繊維は堅調、ガラスビーズは後半に復調の兆し

(金額単位:億円)	2010年度	2011年度	増減
機能材事業 売上高	149	150	1
ガラス繊維/ICクロス	71	69	▲2
ガラスビーズ関連	34	31	▲2
活性炭繊維関連	37	40	3
その他	8	10	2
機能材事業 営業利益	18	17	▲0



□機能材 〔増収・減益〕

◆産業用ガラス繊維・クロス

建築分野の内装材用途などは伸び悩んだが、ビル・土木改修用途を中心に全体は堅調に推移。

◆ICクロス

下期に国内需要は減少、円高により輸出採算も悪化。超薄物タイプなどの高付加価値品へのシフトを進めたが、採算は引き続き厳しい状況。

◆ガラスビーズ

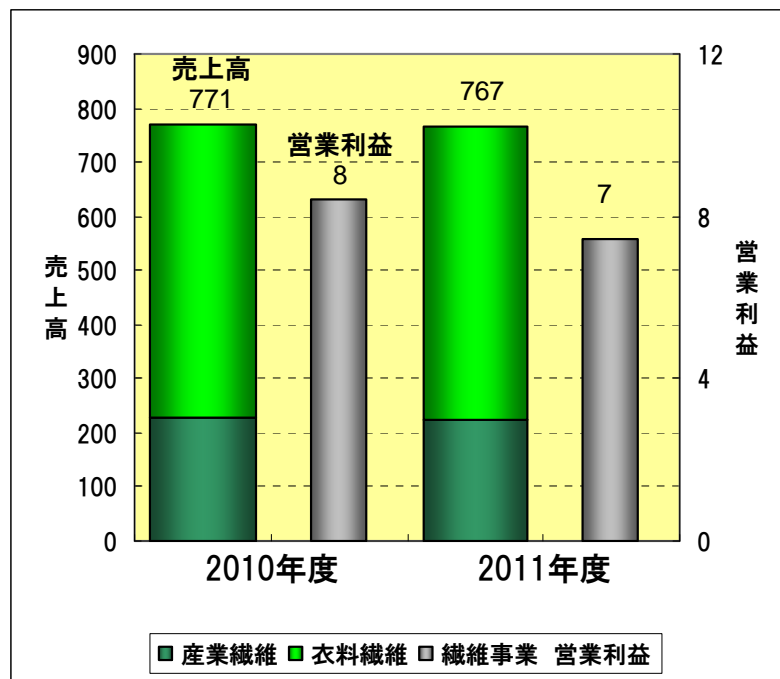
ロードマーキング用途は伸び悩み。工業用途は震災後一部顧客の稼働率低下や高付加価値品の受注減少。下期は受注回復傾向。輸出を中心とした反射材用途も円高などにより売上高は減少。

◆活性炭繊維

国内向け水栓内蔵型などの浄水器用途を中心に堅調に推移。

衣料繊維は収益改善するも、産業繊維は苦戦

(金額単位:億円)	2010年度	2011年度	増減
繊維事業 売上高	771	767	▲ 4
産業繊維	229	225	▲ 4
衣料繊維	541	542	1
繊維事業 営業利益	8	7	▲ 1



□ 繊維 〔減収・減益〕

◆ 産業繊維

ポリエステル高強力糸は、上期は堅調、下期に需要が低迷したため全体として伸び悩む。

ポリエステル短繊維は、円高による採算悪化、原燃料価格上昇によるコストアップを価格改定で十分に吸収できず苦戦。

ビニロン繊維は、アスベスト代替のセメント補強用途で欧州市況の低迷を受け、新興国の市場開拓による拡販を目指すも、海外品との価格競争や円高などにより苦戦。

◆ 衣料繊維

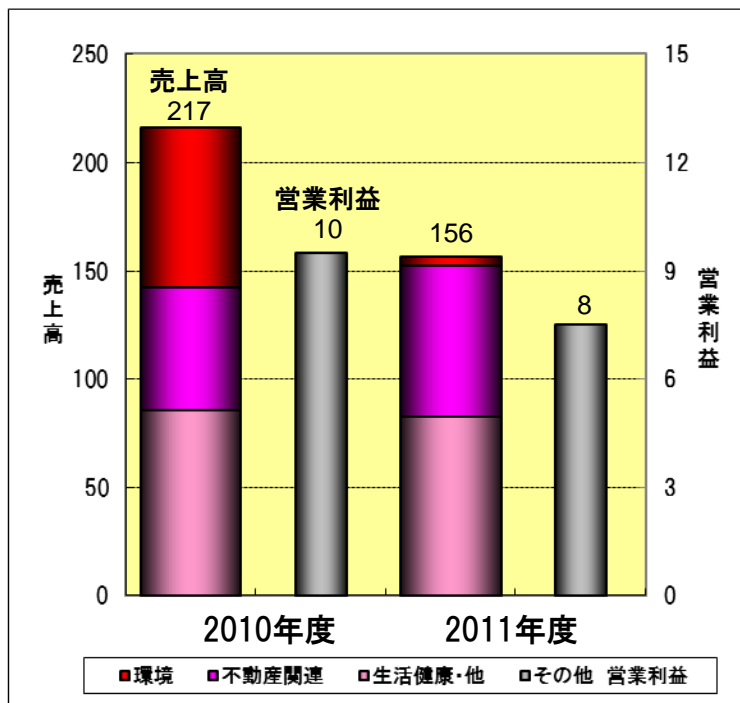
ユニフォーム分野が官需、民需いずれも好調に推移。

節電意識の高まりからスポーツ・レディス分野などの保温性機能素材、吸放湿・熱遮蔽性機能素材などの高付加価値品の販売が堅調に推移。不採算事業の撤退や円高による輸出の減少などにより全体的に売上高は横ばい。

差別化の推進と徹底したコスト削減により収益改善。

環境プラント事業譲渡などにより減収

(金額単位:億円)	2010年度	2011年度	増減
その他 売上高	217	156	▲ 60
生活健康・他	86	83	▲ 3
不動産関連	57	69	▲ 13
環境	74	4	▲ 70
その他 営業利益	10	8	▲ 2



□その他 〔減収・減益〕

◆生活健康

ハナビラタケ関連商品などの健康食品や機能性飼料原料は、概ね堅調に推移の一方、機能性食品原料は上期に国内需要低迷などにより苦戦。

メディカルでは、循環系カテーテルの伸長に加えて、排液系カテーテルが新製品投入もあり、全体として堅調に推移。

◆不動産関連

マンション販売は、新規竣工物件もあり、前期比収益伸長。

◆環境

昨年4月1日、日立造船グループに事業譲渡。減収影響は約70億円。

事業譲渡に関する一時的な費用が発生。

1. 2012年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況

3. 中期計画「改革'11」の総括

- ・「改革'11」の経営数値計画
- ・営業利益変動要因分析
- ・構造改革の進捗
- ・成長戦略の進捗
- ・セグメント別業績
- ・まとめ

4. 2013年3月期業績予想

補足資料～ユニチカの事業の特長

世界経済リセッション等により落ち込んだ収益力を、「選択」と「集中」の推進で回復させる

【対処すべき課題】

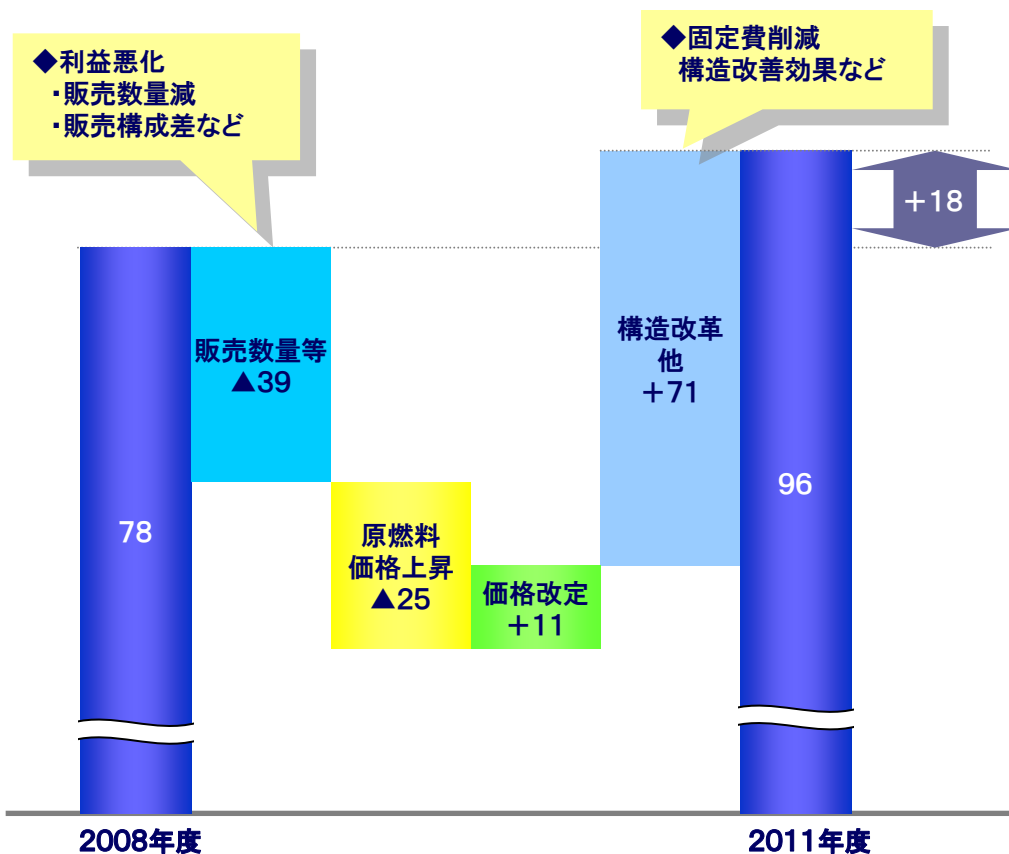
- ① 繊維事業の構造改善と収益の立て直し
- ② 不採算事業の再構築
- ③ 成長分野への経営資源の集中
- ④ 財務体質の継続的改善

(金額単位:億円)	2008年度実績	2011年度「改革'11」	増減
売上高	2,096	2,090	▲6
営業利益	78	155	+77
経常利益	33	105	+72
当期純利益	▲140	65	+205

有利子負債	1,947	1,700	▲247
自己資本比率	5.7%	13.0%	+7.3%

構造改革は目標達成するも、着地年度の事業環境要因もあり、全体の収益目標には届かず

(金額単位:億円)



[年度間ごとの営業利益変動要因分析]

(金額単位:億円)	販売数量等	原燃料価格	価格改定	構造改革他	年度間変動
2008⇒2009	▲ 62	25	▲ 30	74	7
2009⇒2010	25	▲ 20	10	5	20
2010⇒2011	▲ 2	▲ 30	31	▲ 8	▲ 9
合計(2008⇒2011)	▲ 39	▲ 25	11	71	18

固定費削減と構造改善は順調に進捗、収益基盤は強固に

(金額単位:億円)	2009年度		2010年度		2011年度	
	改革'11	実績	改革'11	実績	改革'11	実績
固定費削減施策の効果(A)【注1】	53	60	54	59	35	41
構造改善施策の効果(B)【注2】	14	14	19	25	20	32
構造改革の効果(A)+(B)	67	74	73	84	55	73

【注1】 2008年度対比でのコストダウン効果

【注2】 2008年度対比の営業利益の改善効果

□固定費削減施策は、各年度の計画を上回る効果を発現

□構造改善施策は、以下の追加施策で各年度を上回る効果を発現

- ①衣料繊維の厳しい事業環境に対応するため、衣料繊維のコア4社の商流機能を統合、ユニチカトレーディング(株)発足
- ②不採算子会社の清算などによる不採算事業の撤退・縮小

フィルム、活性炭繊維は順調に進捗

成長戦略	成長戦略の施策	進捗評価
	①フィルム事業の強化・拡大	+++
	②高機能樹脂の強化	++
	③不織布事業の強化	+
	④産業繊維分野の強化	
	・ポリエステル短繊維の強化	+
	・セメント補強用ビニロンの拡大	+
	⑤無機系機能材の強化	
	・活性炭繊維の強化	+++
	・ガラス繊維(産業用クロス)の強化	+
・ICクロスの強化	+	

【評価】

+++：順調に進捗

++：ある程度進捗

＋：進捗が遅れた

(環境変化による問題が発生した事など含む)

成長戦略(事業力強化)は「フィルム事業の強化・拡大」「活性炭繊維の強化」が順調に進捗。

進捗が遅れた「不織布事業の強化」については、新中期計画で改めて増設の検討を行い、海外市場も含めた販売規模拡大を目指す。

産業繊維、ICクロスは、『改革'11』期間中に環境変化が生じたため、改めて対策に着手しており、新中期計画期間中に収益改善を目指す。

セグメント別では、高分子事業が1年前倒しで目標達成

(金額単位:億円)	「NP8」	「改革'11」			
	2008年度 実績(注)	2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度	
				計画	実績
売上高	2,096	1,822	1,807	2,090	1,747
高分子事業	685	609	670	730	673
機能材事業	304	155	149	185	150
繊維事業	906	775	771	925	767
その他	200	282	217	250	156
営業利益	78	85	105	155	96
高分子事業	82	89	106	103	96
機能材事業	19	15	18	32	17
繊維事業	▲2	▲5	8	32	7
その他	13	21	10	16	8
全社・消去	▲35	▲34	▲36	▲28	▲33

(注) ; 2008年度実績、2011年度「改革'11」のセグメントは、当初のセグメント(「環境・機能材事業」「生活健康・その他事業」)の数字。

震災、タイ洪水、欧州債務危機等の景況悪化要因もあったが、構造改革の達成により成長に向けての基盤は強固に。

(金額単位:億円)	2008年度実績	2011年度実績	増減
売上高	2,096	1,747	▲349
営業利益	78	96	+18
経常利益	33	58	+24
当期純利益	▲140	13	+153

有利子負債	1,947	1,732	▲215
自己資本比率	5.7%	10.6%	+4.9%

1. 2012年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況

3. 中期計画「改革'11」の総括

- ・「改革'11」の経営数値計画
- ・営業利益変動要因分析
- ・構造改革の進捗
- ・成長戦略の進捗
- ・セグメント別業績
- ・まとめ

4. 2013年3月期業績予想

補足資料～ユニチカの事業の特長

機能資材メーカーとしての基盤強化施策、低採算事業の収益改善施策を着実に実行

(金額単位:億円)	2011年度 実績	2012年度 予想	前期比 増減
売上高	1,747	1,750	3
営業利益	96	90	▲6
経常利益	58	60	2
当期純利益	13	20	7

与件	2012年度
原油(\$/バレル)	110
為替(円/\$)	85(買)/80(売)

- ◆ 日本経済は緩やかに回復、世界経済は引き続き中国を中心としたアジアや他の新興国が牽引するも、欧州をはじめとする先進国は低成長が続く前提。
- ◆ 世界経済回復の不透明感、原油高に伴うコストアップ、電力不足懸念、為替動向など不安定な要素はあるが、新中期計画に掲げる機能資材メーカーとしての基盤強化、低採算事業の収益改善に関する施策を実行し、着実に収益を上げる。

2013年3月期業績予想

セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な利益変動要因(想定)
	2011年度実績	2012年度予想	前期比増減	2011年度実績	2012年度予想	前期比増減	
高分子事業	673	690	17	96	95	▲1	前期(前半)の包装フィルム特需が通常状態に戻る
機能材事業	150	155	5	17	17	▲0	欧州向けなどの需要の急回復は見込まず
繊維事業	767	740	▲27	7	9	2	産業繊維(ビニロン等)の収益改善、衣料繊維子会社の収益改善
その他	156	165	9	8	9	1	不動産関連の収益伸長等
全社・消去				▲33	▲40	▲7	
合計	1,747	1,750	3	96	90	▲6	

1. 2012年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況

3. 中期計画「改革'11」の総括

- ・「改革'11」の経営数値計画
- ・営業利益変動要因分析
- ・構造改革の進捗
- ・成長戦略の進捗
- ・セグメント別業績
- ・まとめ

4. 2013年3月期業績予想

補足資料～ユニチカの事業の特長

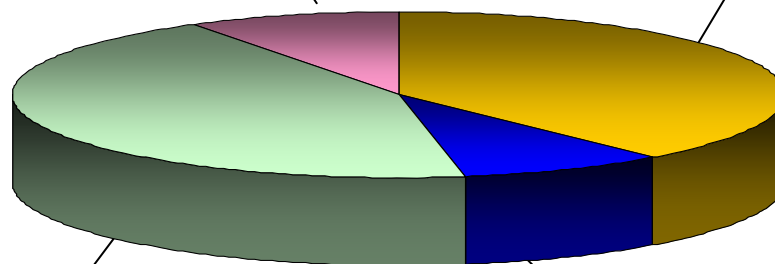
その他（売上高構成比 9%）

- ◆生活健康 医用材料
健康補助食品 等
- ◆不動産関連
- ◆その他 設備技術
情報システム
環境分析 等

高分子事業（売上高構成比 38%）

- ◆フィルム ナイロンフィルム
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂
ポリエステル樹脂
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルспанボンド
綿спанレース

2011年度
売上高
1,747億円



繊維事業（売上高構成比 44%）

- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸
ポリエステル短繊維
ビニロン繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム
一般・婦人衣料素材
スポーツ衣料素材 等

機能材事業（売上高構成比 9%）

- ◆ガラス繊維
- ◆ICクロス
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

	フィルム	樹脂	不織布
主要 製品 (用途)	<p>包装</p>	<p>自動車 部品</p>	<p>カーマット基布 農業用被覆材</p>
	<p>工業</p>	<p>精密機器</p>	<p>生活雑貨</p>
	<p>◇ナイロンフィルム ◇ポリエステルフィルム</p>	<p>◇ナイロン樹脂 ◇ポリエステル樹脂 ◇ポリアリレート樹脂</p>	<p>◇ポリエステルスパンボンド ◇綿スパンレース</p>

	ガラス繊維	ICクロス	ガラスビーズ	活性炭繊維
主要 製品 (用途)	 車両電照カバー	 プリント基板	 ロードマーキング	 活性炭繊維フィルター
	 産業用ガラスクロス			

	産業繊維	衣料繊維
主要製品 (用途)	 <p>産業資材用 ポリエステル 繊維</p> <p>ビニロン繊維 (セメント補強用途)</p>	 <p>ユニフォーム</p> <p>婦人衣料</p>
	◇ポリエステル高強力糸 ◇ポリエステル短繊維 ◇ビニロン繊維 等	◇ユニフォーム スポーツ衣料 ◇一般・婦人衣料素材 ◇スポーツ衣料素材 等

主要 製品 (事業)



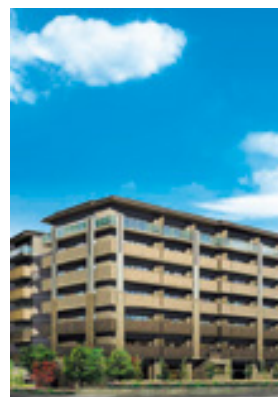
抗血栓性
カテーテル



創傷被覆保護材
ベスキチン



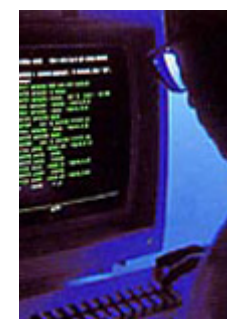
健康補助食品



マンション事業



ヒーティング
システム



ソフトウェア設計

◇生活健康
医用材料、健康補助食品 等

◇不動産関連

◇設備技術
◇情報システム
◇環境分析 等

※シェアは当社推定

	製 品	シェア	主な用途 等	当社の強み
		国内		
高分子	ナイロンフィルム	50%弱 (1位)	食品包装用 (世界シェア1位)	同時2軸延伸技術 クイックデリバリー
	ポリエステルспанボンド	40% (1位)	自動車内装、建築、土木、農業資材 衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	綿спанレース	60% (1位)	衛生材料、生活雑貨	バインダーレス 天然素材の風合い
	ポリアリレート樹脂	当社独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス（産業用）	30% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築、土木資材	製織・製織技術
	ガラスビーズ	35% (2位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品の品揃え
繊維	ポリエステル短繊維(バインダー)	60% (1位)	建材、家具、自動車内装向け不織布原料	複合繊維化技術

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。